

地獄の風車と異名を持つデッカ  
ーが、最後まで攻めしかねたスタ  
イル、そうムエタイがトトフのベ  
ースにある。

年に3、4回も、かの地を訪れ  
トレーニングを積んでいるのも、  
フランスでは掴み得ないムエタイ  
のフイーリングを、層の厚いタイ  
でモノにしたいためだという。

これまで日本のマットと縁のな  
かった彼だが、強引に接点を求め  
ようとすると、一人の選手にたど  
りつくことができる。それはチャ  
クリキ所属のスウェーデン人フア  
イター、バトリック・エリクソン  
である。昨年3月に、MA日本ラ  
イト級王者佐藤堅一と闘い、攻勢  
のままドロローに終わったハード・



○昨年12月5日、猛暑のタイで5時間も控室で待たされたにもかかわらず、ベッウボン・ポー・ムアンウボンを圧倒した一戦。ここで、来日の扉が開かれたといっても過言でない

パンチャードだ。華麗な金髪のイメ  
ージにそぐわないほど、アグレッシ  
ブな選手だったが、そのエリク  
ソンとドロローは、97年9月にアム  
ステルダムで戦った。あの試合は、  
僕のキック歴で一人もいかなかった。  
文句なし、最強の選手だったよ」と  
エリクソンについて語るトトフ、  
ということはエリクソンのパンチ  
に相当苦しめられたに違いない。  
と、思いきや彼はトム・ハリー  
ックの秘蔵っ子をわずか、IRで

葬っているのだ。  
3分でKOした選手が、これま  
で一番の強敵というのだから、  
やはりトトフは並の選手ではない。  
そんな彼だからこそ、目標も一  
際高く設定されている。兄弟の援  
助により、キック一本の生活をし  
ている彼は、WMTTC世界王座、

## 写真や記事でピンとこなかったアナタ 2・21MA日本キック後楽園大会で

2月21日、MA日本キック後楽園大会「REVOLUTION」にフランス  
から、トトフが来日すると発表された。トトフという名を耳にしても、ピンと来  
る人はまだ少ないかもしれない。なにせ、これまで本誌に登場したのはわずか二  
度。しかも、写真一点のときを含めてだ。だが、12月5日にバンコクで行なわれ  
た王宮前広場ムエタイ特別興行で彼の強さを目にした本誌スタッフの99年イ  
チオ選手が、このトトフなのだ。タイ人から、絶大な支持を得た22歳のフラン  
ス人キックボクサーの凄さに、井上哲と対峙する前に少しだけ触れておこう  
（文●高島亨）  
SPECIAL THANKS TO JEAN JAQUE DESPIONQUE GROUNDS MAGAZINE

# トトフの凄まじい体感

そして日本に定期的に来日できる  
選手になることを目指している。  
「そうすれば、兄のカラードに少し  
は恩返しができるから」というが、  
ならばなおさら、初めての日本で  
の試合は大切になってくる。それ  
は、勝敗だけでなく試合内容も踏  
まえて、だ。

その強さ、テクニクは、タイ  
で彼を見た人間として、保証でき  
る。ただ、プロ意識という面まで  
は、たった一試合では判断できな  
いと言わざるをえない。

強さ+α、そのあたりが問題とい  
うわけだ。が、フランスから送ら  
れてきた彼の言葉を聞いて、そん

な不安はかき消され、ただ2月21  
日という日を迎えることが楽しみ  
で仕方がなくなってきた。

○95年11月25日にパリで行なわれたキックの大会  
デレック・ジムに所属していたトトフが、この年の  
アマ・ムエタイ世界王者モハメッド・ヤマニと対戦  
し、5Rドロローに、この後、再戦でヤマニに敗れた  
負けが、タイ人以外に喫した唯一の黒星だ



○96年、パリでハッサン・サリッドからフランス・  
ライト級王座を獲得。パンチも小気味いい  
○97年9月27日アムステルダム、チャクリキ所属  
のスウェーデン人強豪キックボクサー、バトリ  
ック・エリクソンと対戦したトトフは、IR終了と同  
時にKO勝ちを収めた。4月に再戦が囃されている



最後に、そのトトフのキックボ  
クサーとしての信条をお伝えしよ  
う。そして、当日、彼の強さを体  
感しようではないか。  
「見栄えがよく、クレバーでスピー  
ド、パワー、テクニクを持ち合  
わせ、全力を尽くして闘う人間の  
ことをプロのキックボクサーと言  
うんだよ。ファンの人々は、そん  
なファイターを望んで会場に足を  
運ぶんだ。そういう人々たちを満足  
させるのが、僕の仕事なんだよ」



12月5日、とても蒸暑いバンコクの夜。国王の誕生日を祝うムエタイの興行が10万人の観衆を集めて行われたことは、本誌222号でお伝えした通りである。  
あの気候のなか5時間以上に渡るロングラン興行は、さすがにハ

ードな取材となったが、最後の最後、トトフという名のフランス人ファイターの出現によって、疲れも暑さも吹き飛んでしまった。  
弱冠22歳の愛くるしい瞳の持ち主は、ベッウボン・ポー・ムアンウボンを相手に、パンチ、ヒジ、ヒザ、足払いをいのように放ち続け、タイの観客からトトフ・コールを受けて、快勝してみせたのだ。何年もキックやムエタイを見てきたが、あんなにタイ人をコロコロんと転がす選手を拝見したことは、一度としてない。  
5時間も、控室代わりのバスで待機させられていたのに、大した精神力だ。後日、フランスから入った情報だと、さすがに彼もあまりの暑さ、一向に進まない時間に頭痛がしてきたらしい。  
「もう緊張の糸が途切れそうになつていたけど、次々と戻ってくるオランダ勢がみな、顔をカッとしたり、ヒザ蹴りを喰って呻いていたりしているのを見て、奮い立ったんだ。おいトトフ、お前もああ



「デッカーには早くリングを去ってほしい」と豪語する驚異の22歳!!

いう風に血まみれにされて、10カウントを聞くのか?」って」  
僕はタイに来て試合をしているんだから、こんな暑さ当然じゃないか——、自分の心に言い聞かせた彼は、計量するときのベッウボンのとつた行動をもう一度、思い出したという。  
「ヒジを僕の方に向けて、笑いながら振ってるんだよ。この野郎と思つたよ」  
実は、トトフの試合は本誌ではその他の試合という扱いで、写真一点になる予定だったところを、

彼の試合に衝撃を受け、魅了されたスタッフは、IPへ昇格することを、即時決定したという経緯が存在する。よって、見知らぬフランスの選手がサリや、オワリなど日本でも名の知れた選手より、扱いが大きくなったという次第だ。  
文才の無さを棚に上げて、こんなことをいうのは大変忍びないがトトフはもつと多くのページを取る力、才能を有している。  
欠けているのは、知名度だけ。そんな本誌スタッフのほとんど思い入れに近いページの記事に、山本敏弘MA日本キック連盟理事長がヴィヴィットに反応を示してトトフの来日が決定した。  
2月21日、後楽園大会で井上哲と対戦するトトフ、日本のファンは、とても選手を尊敬してくれると聞いている。もちろん、勝つための訪日だけ、そんな観客の皆



さんに僕の全てを捧げて、いい試合をしたい。相手は問題じゃない、全力を尽くして闘います」と心意気を語っている。  
トトフ・ヨーセフ・ムスタファ、これまでの戦績は、29戦24勝4敗1分(タイで発表された31戦29勝は誤報だった)。4敗のうち3敗はタイで喫したものだ。  
かつて、ディダ・ディアファット、ステファン・ニキエマ、デニ

○かつてジェロム・レ・パンナが所属していたシー・アム・ジムに所属するトトフ。アレックス・ゼイトンという名トレーナーを得て、強さに磨きがかかる



ジョエル・セザーという名選手が所属していたアレック・ジムで、キックを始めたトトフだが、彼のヒーローは自国の偉大な先輩ではない。  
「なんといっても、ラモン・デッカー。確かに、ここ数年は下り坂にあるよ。でも、全盛期の彼になう者はいないよ。だからこそ、早くリングを去ってほしいんだ。強い彼のままで、思い出したいからね」  
憧れは憧れとして、現実とハッキリ区別するクールな彼は、そのスタイルもまったくデッカーの影響を受けていない。